



日本植物バイオテクノロジー学会 会報

2021年度学会賞推薦のお願い

2021年度の学会賞の推薦をお願い致します。候補者の推薦は、電子メールで幹事長（光田展隆）宛（nobutaka.mitsuda@aist.go.jp）にお送り下さい。件名を「JSPB 学会賞推薦」とし、[学会のホームページ](#)からダウンロードした様式1に推薦内容を記入してファイル添付でお送りください。推薦は書面（郵送）でも受け付けます。その際は封筒に推薦書が同封されている旨を記載の上、上記の情報を同封ください。推薦にあたっては候補者の内諾を取って下さい。受け付けた場合は、メールにて受け付けた旨を必ず連絡しますので連絡がない場合はお問い合わせください。推薦の受付は12月末日までと致します。多くのご推薦をお待ちしております。

学会賞について；

名称	受賞者の資格	受賞の対象	推薦者	受賞件数
学術賞	一般会員	優れた研究業績に対して	会員	2名以内
特別賞	会員（連名の場合は5名を限度）	社会的影響の強い、特に優れた研究成果や活動に対して	会長、幹事長、代議員	随時（該当者があ る場合）
技術賞	会員（連名の場合は5名を限度）	実用化された、または実用化間近の顕著な研究成果に対して	会長、幹事長、代議員	2件以内
奨励賞	当該受賞年の3月31日の時点で40歳以下の一般会員	優れた業績を有し、将来さらなる活躍が期待される若手の研究者に対して	会員	3名以内
学生奨励賞	学生会員	優れた研究を遂行し、将来の活躍が期される学生会員に対して	会員	3名以内

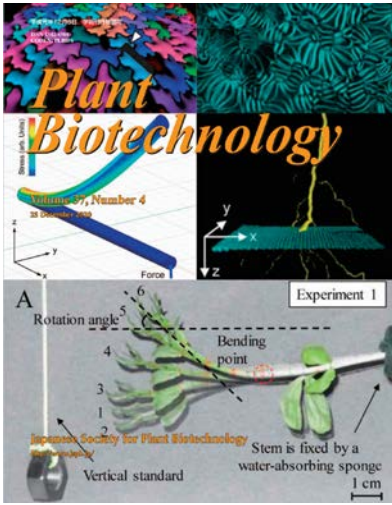
目次

学会賞推薦のお願い	1
Plant Biotechnology Vol.37 No.4	
発行のご案内	2
第38回大会のご案内	2
第39回以降の大会について	2
市民公開シンポのご案内	3
ゲノム編集 GABA 高蓄積トマト	3
お知らせ	4

今号のトップ写真

GABA 高蓄積トマト：ストレス緩和や血圧上昇抑制などの効果が期待される健康機能性成分であるγ-アミノ酪酸(GABA) をゲノム編集技術を用いてトマトで安定的に高蓄積させています。

Plant Biotechnology Vol.37 No.4 発行のご案内



(表紙写真の説明)

Strategies of mechanical optimization in plants

(Top Left) Four-dimensional observation of Arabidopsis cotyledon pavement cells (Higaki and Mizuno, pp. 429–435). (Top Right) Secondary cell wall deposition in Arabidopsis cotyledon pavement cells induced by the VND7-VP16-GR system (Kunieda et al., pp. 465–469). (Middle Left) Static stress simulation image for a cantilever beam of a low density polyethylene rod (Watanabe et al., pp. 485–488). (Middle Right) Image of passage of sorghum root (yellow) through metal mesh (cyan) buried in Toyoura sand (Yoshida et al., pp. 481–484). (Bottom) Maximum intensity projection of time-lapse images during gravitropism of the pea sprout (Nakaso et al., pp. 475–480).

Plant Biotechnology 誌の最新号 (Vol.37 No.4) が発行されました。本号は本会会員である奈良先端科学技術大学院大学教授の出村拓先生が代表を務める新学術領域研究「植物の力学的最適化戦略に基づくサステナブル構造システムの基盤創成(略称名:植物構造オプト)」から生まれた研究成果 15 本 (Preface 1, Original Papers 8, Notes 4, Short Communications 2) を掲載した特集号になっています。ぜひご覧ください。

第 39 回以降の大会について

日本植物バイオテクノロジー学会第 39 回大会 (2022 年) は大阪公立大学 (仮称) にて小泉望先生を大会実行委員長として開催予定です。第 40 回大会 (2023 年) は理化学研究所平井優美先生を大会実行委員長として、第 41 回大会 (2024 年) は東北大学中山亨先生を大会実行委員長として開催予定です。ご協力いただきます先生方に深く感謝申し上げます。

第 38 回大会 (つくば) のお知らせ

日本植物バイオテクノロジー学会第 38 回大会は、筑波大学江面浩先生を大会実行委員長として 2021 年 9 月 9 日 (木) ~11 日 (土) に筑波大学にて開催予定です。ただし状況によってはオンライン開催に変更する場合があります。

実施概要 (予定)

9 月 9 日 (木) 代議員総会、2020 年度受賞講演
 9 月 10 日 (金) 一般講演・シンポジウム、総会・受賞式・受賞講演、懇親会
 9 月 11 日 (土) 一般講演・シンポジウム
 会場：筑波大学春日エリア
 懇親会会場：ホテルグランド東雲 9 月 10 日 (金) 18:30-21:00

大会事前発表・参加登録 (予定)

講演申込受付期間：2021 年 4 月 5 日 (月) ~ 6 月 13 日 (日)
 参加申込受付期間：2021 年 4 月 5 日 (月) ~ 7 月 30 日 (金)

シンポジウム開催概要 (予定)

- (1) 食の未来を拓く先端技術
オーガナイザー：産学官連携委員会
- (2) バイオエコノミーの展開に向けた強い技術・情報・システムの創出と活用
オーガナイザー：矢野健太郎 (明治大学)
- (3) Made in Japan：世界を駆ける日本発のゲノム編集技術開発の最前線
オーガナイザー：遠藤真咲 (農研機構)、野中聡子 (筑波大学)
- (4) 植物オルガネラゲノム工学の新展開
オーガナイザー：有村慎一 (東京大学)
- (5) 博士人材が活躍する多様なキャリアパス (ランチョンセミナー)
オーガナイザー：キャリア支援・男女共同参画委員会
- (6) Opportunities and Challenges of Plant Biotechnology (日中韓三ヶ国シンポジウム)
オーガナイザー：国際化委員会

市民公開シンポジウムのお知らせ



本年の市民公開シンポジウムは3月6日(土)にオンラインで開催されることになりました。参加登録用 WEB サイトはオープン次第本会ホームページやメーリングリストなどで告知いたします。

スケジュール

- 13:00 開会挨拶
小泉 望 (大阪府立大学・教授/日本植物バイオテクノロジー学会・会長)
- 13:05 講演 1 「ゲノム編集作物で健康実現～GABA 高蓄積トマトの開発と実用化」
江面 浩 (筑波大学・教授/サナテックシード株式会社・CTO)
- 13:30 講演 2 「ミラクリントマトで食事を楽しく」
棚瀬 京子 (筑波大学・研究員)
- 13:55 講演 3 「産業応用を目指した植物研究」
光田 展隆 (産業技術総合研究所・研究グループ長)
- 14:20 講演 4 「機能性米でスギ花粉症対策：スギ花粉米の開発と実用化に向けた取り組み」
高野 誠 (農業・食品産業技術総合研究機構・主席研究員/筑波大学・教授)
- 14:45 質疑応答・パネルディスカッション (オンラインディスカッション)
- 15:15 閉会挨拶



ゲノム編集 GABA 高蓄積トマト

本会会員であり元会長でもある筑波大学江面浩先生が中心となって(株)サナテックシードで開発されたゲノム編集 GABA 高蓄積トマトの厚生労働省、農林水産省への届出が受理されました。本 GABA 高蓄積トマトではゲノム編集技術により、GABA 生成に重要なグルタミン酸脱炭酸酵素の自己抑制にかかわる C 末端領域が翻訳されないようになっています。完成したトマト品種を F1 品種化したシシリアンルージュハイギャバは、家庭菜園用の苗としてバイオニアエコサイエンス株式会社のホームページから無料頒布の申込みができます(数量限定のため受付終了の場合があります)。

→ [申込みサイト](https://p-es.co.jp/tomato/high-gaba-tomatoes-monitor/) (https://p-es.co.jp/tomato/high-gaba-tomatoes-monitor/)

お知らせ

日本植物バイオテクノロジー学会

〒162-0801
 東京都新宿区山吹町 358-5
 (株) 国際文献社内
 TEL: 03-6824-9378
 FAX: 03-5227-8631
 jspb-post@bunken.co.jp

ホームページ:
<https://www.jspb.jp/>

編集後記

日本植物バイオテクノロジー学会では、改革の一環として会報のあり方についても理事会で検討しています。本号からは写真などを使用してデザイン性を高め、コンテンツを充実させてみました。まだ改善の途上ですので、会員の皆様からのご意見をお待ちしております(担当: 幹事長 光田展隆)。

◆ ゲノム編集トマトに関するオンラインセミナー

大阪府立大学「ゲノム編集の未来を考える会」では2020年12月に国内で初めて栽培・消費が可能となったゲノム編集植物であるGABA高蓄積トマトを取りあげて、ゲノム編集食品との付き合い方を多様な視点から議論するオンラインイベントを開催することとなりました(本会も協賛しています)。皆様のご参加をお待ちしております。詳しくは[イベントホームページ](http://www.biosci.osakafu-u.ac.jp/foge/2020/12/16/gabatomato/) (<http://www.biosci.osakafu-u.ac.jp/foge/2020/12/16/gabatomato/>)をご覧ください。

ゲノム編集トマトに関するオンラインセミナー

「育てますか?ゲノム編集高GABAトマト」
 開催日時: 2021年1月23日(土) 13:30~15:30
 講演: 江面 浩 (筑波大学/サナテックシード(株))
 クロストーク:
 井口 真実 (奈良女子大学理学系研究科)
 小島 正美 (食生活ジャーナリストの会代表/元毎日新聞記者)
 高島 賢 (農林水産省 消費・安全局農産安全管理課)
 松本 陽子 (大阪いずみ市民生協副理事長)
 ※可能な範囲で参加者のご意見も取り上げます。
 参加費: 無料 定員: 500名

◆ 日本植物バイオテクノロジー学会は創立40周年を迎えます!

本学会は、日本植物組織培養学会として1981年に設立され、1995年に日本植物細胞分子生物学会、2020年に日本植物バイオテクノロジー学会と改称され、2021年に創立40周年を迎えます。理事会では40周年記念市民公開シンポジウムや記念冊子作成などの事業実施の検討を進めております。ご期待ください。

40周年記念市民公開シンポジウム

「明日を拓く、日本発の植物バイオテクノロジー」
 月日(予定): 2021年7月11日(日)
 会場(予定): 東京大学一条ホールおよびZoomウェビナー
 概要と講演者(予定):

【第1部】現在の基礎研究から応用展開まで

- 講演1: 植物バイオテク40年-私たちの生活にもたらす恩恵
 (山川 隆・東京大)
 講演2: 植物細胞が作る有用物質の宝箱「二次代謝」
 (矢崎一史・京都大)
 講演3: イネの遺伝子組換え歴史秘話ヒストリア
 (鳥山欽哉・東北大)

【第2部】日本発の遺伝子組換え作物とゲノム編集作物

- 講演4: 花をもっと色とりどりにする
 (田中良和・サントリー)
 講演5: 遺伝子組換えイチゴで動物用医薬品開発
 (田林紀子・ホクサン)
 講演6: ゲノム編集技術で安全安心な毒のないジャガイモを創る
 (村中俊哉・大阪大)
 講演7: 高GABAトマト:ゲノム編集作物の開発と上市
 (江面浩・筑波大)

【第3部】一般市民の方との意見交換